

氏名	若 林 隆 信		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2204 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成 2 年 12 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	急性腎不全発症に関する臨床・病理学的研究 —組織化学的，免疫組織化学的検討—		
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介	教授 岡田 茂	教授 赤木忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

1969～1984年に剖検された3,769例から，急性腎機能不全66症例と腎疾患のない7症例をコントロールとし，腎組織を組織化学的および免疫組織化学染色法を用い，急性腎不全の発症に汎発性血管内凝固症候群（Disseminated Intravascular Coagulation: DIC）が関与しているか否かを病理組織学的に検討した。

急性腎不全症例で，糸球体または尿細管のいずれかにFibrin由来物質（Fibrin-Related Materials: FRMs）が陽性であった症例，すなわちDICと病理組織学的診断できた症例は89.4%であった。この数値は，諸家が報告しているDICと診断された剖検腎組織のFRMs陽性率，26例中23例（88%），41例中37例（90%）と一致するものであった。すなわち臨床的にDICと診断された症例のFRMs陽性率は急性腎不全症例のFRMs陽性率と一致し，急性腎機能不全にDICが合併していることが判明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は1969～1984年に剖検された3,769例から，急性腎機能不全66症例と腎疾患のない7症例をコントロールとし，腎組織を組織化学的および免疫組織化学染色法を用い，急性腎不全の発症に汎発性血管内凝固症候群（Disseminated Intravascular Coagulation）が高頻度に関与していることを明らかにした価値ある業績である。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。